

5. 2020年東京大会計画の策定に至った経緯

コンパクトをコンセプトとして掲げる2020年東京大会では、アスリートと観客の双方にとっての利便性を考慮し、下記等により、競技会場やインフラ設備を配置する計画を策定した。

- ・東京都内にある31会場等のうちの28会場、全てのIOCホテル及びIPCホテルが選手村から半径8km圏内に存在する、コンパクトな大会を開催する。
- ・過去の遺産を守りながら未来へのビジョンを示すため、競技会場を、運営・テーマにより、1964年東京大会のレガシーが集積するヘリテッジゾーン、もう一つは未来に向けて発展する東京の姿を象徴する東京ベイゾーンの2つのゾーンに分ける。
- ・アスリートが最高のパフォーマンスを発揮できる競技会場を提供するため、国際競技連盟との十分な連携のもとに、要件を満たす既存の施設を選定し、また新設で恒久的または仮設の競技会場を整備する。
- ・世界有数の信頼でき発達した公共交通網により、安心・安全かつ効率的な交通運営を確保する。
- ・東京の現在及び将来のニーズに合致する恒久的な施設を建設することにより、持続可能で素晴らしいレガシーをスポーツやコミュニティや地域のために残す。